

節目の年を迎えるに当たっての 振り返りと、これからの取り組み

[第1回]

松田和喜 [まつた・かずよし]
介護老人保健施設鷺巣苑 [わしすえん] (福井県)
事務長



はじめに

当施設は、社会福祉法人大日園が運営する高齢者福祉サービスの独立型老健施設（入所：63名、通所：60名）で、指定居宅介護支援事業所を併設しています。法人理念の「安心立命（心を安んじて天命にしたがう）」のもと「あなた（利用者、地域、職員）と創る地域共生社会」をスローガンに掲げています。

地域包括ケアの理念を普遍化し、高齢者のみならず、地域での生活に困難を抱える障がい者や子どもなどが、安心して生活を送ることができるよう、地域を「丸ごと」支える切れ目のない包括的な支援体制の構築を、他事業のこども福祉サービス・障がい者福祉サービスと協働しめざしております。そのなかで私が老健施設の事務職員として、他職種と関わりながら取り組んできたことを振り返ってみたいと思います。

入職して

来年、開設30周年を迎える当施設に私が入職したのは27年前のことになります。その間4人の事務長から教育を受け、一事務職員として業務に携わってきました。入職した当時は約30名の職員が在籍しており、他業種から転職してきた人がほとんどであったため、開設当初の苦労話が面白おかしく話されていたことを最近のことのように思い出します。

開設から10年の期間については、借入金返済に重きを置いて運営していたこともあり、在籍していた職員の皆さんには大変な苦労をかけたことと思います。途中、勝山市の要請による通所事業拡大に伴う増設や、指定居宅介護支援事業所の開設と、いま思えばかなり無理をしていたかもしれません。毎月の収支計

算、人員配置基準にあればほど気を配ることは今後ないと思います。

その10年があったおかげで、その後は着実に収益を上げることができ、時代とともに変化していく介護保険制度への対応や、新たな設備の導入、既存設備の入れ替えも無理なく行えました。さらには新型コロナウイルス感染症拡大による経営への影響にも耐え得る体力を確保できたことについて、開設当初から施設を支え基礎を築いてくれた職員の皆さんには感謝の念に堪えません。こうして我々が節目の年を迎えられることは、本当に幸せなことだと思います。先人たちが築き上げてきた歴史に恥じないようこれからも努めていきたいと思っています。

職員の定着率を上げるために

ある程度返済の目途が立った時点で、職員を徐々に雇い入れていき業務負担の軽減、処遇改善を行いながら現在の職員数57名（非常勤職員含む）に至ります。特にリハビリ部門についてはスタッフを2名から3名に増やし、通所リハビリ利用者を主に対象としてリハビリ機器を一新して、近隣の通所介護事業所との差別化を図りました。その後は超強化型をめざす上で5名まで増やしたところ（2020年5月を最後に超強化型は算定できていない）。開設当初はリハビリ専門職が1名しかおらず、長期療養により人員基準を満たせなくなったことを思えば本当に喜ばしいことです。

施設全体の業務負担軽減のために行った1番大きなことは2011年の介護記録システムの導入です。このときに勤怠管理システム、電子ファイル管理システムなども取り入れ電子化を進めております。全職員が支障なく記録できるようパソコンを必要台数そろえ、